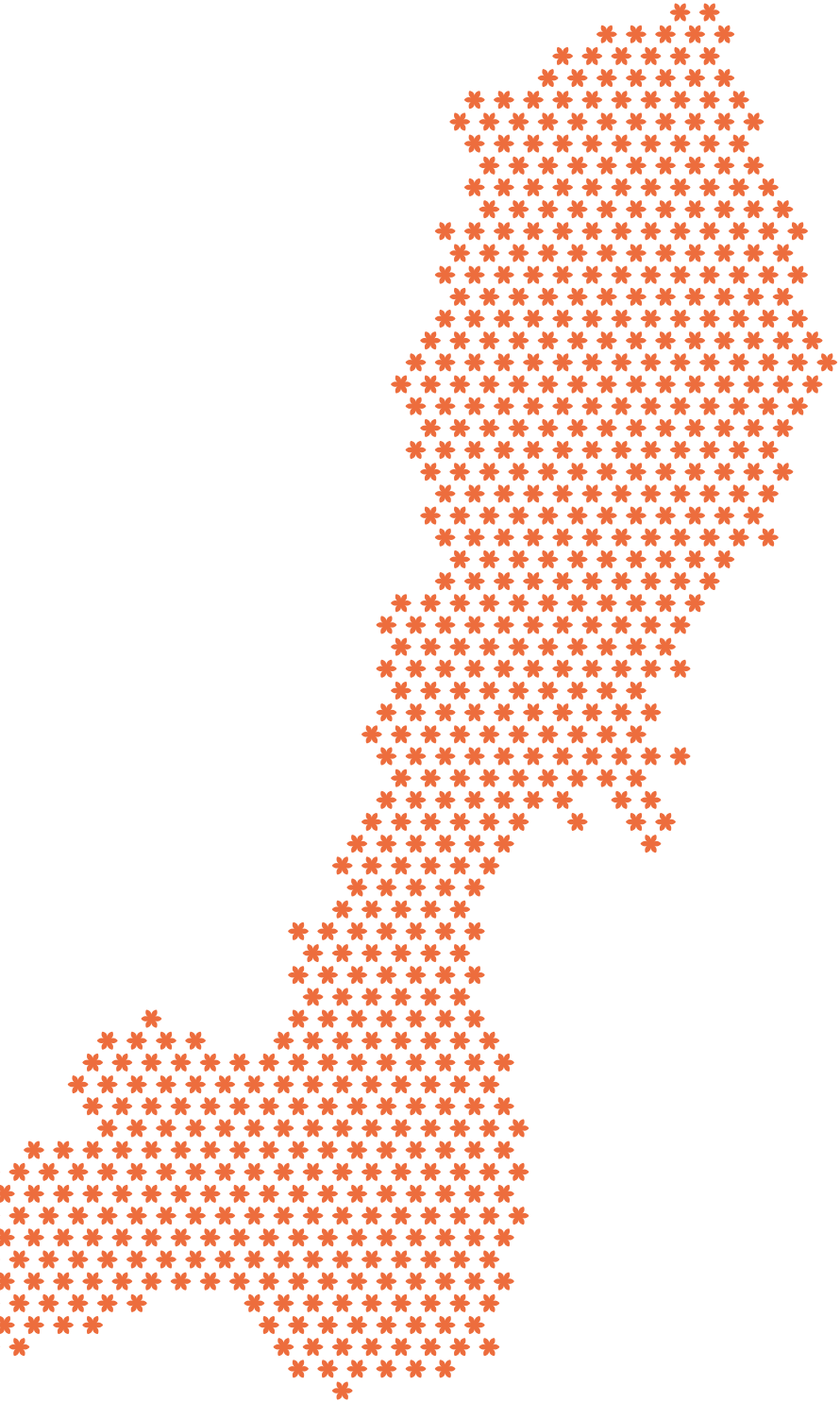


三菱商事復興支援財団
2014－2015

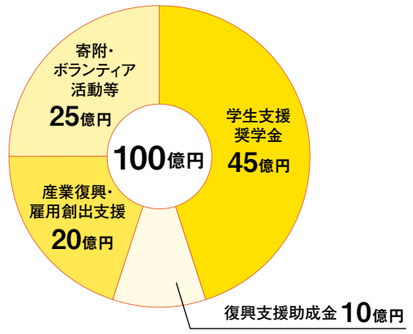
希望のいしずえ

この冊子は三菱商事復興支援財団の2014年度の活動報告です。当財団では、大学生への奨学金の支給、被災地で活動するNPOなどへの助成、被災地の事業者を対象とした産業復興・雇用創出に対する支援を行っています。また2015年度からは福島県で果樹農業6次産業化プロジェクトを開始しました。これらの活動は、被災地の未来を担う若者や、被災地の継続的な復興、経済再生の基礎となる地域産業への、いわば“被災地の未来に対する投資”。「希望のいしずえ」という言葉には、三菱商事復興支援財団による支援が被災地での希望を生む根幹になってほしいという願いを込めています。

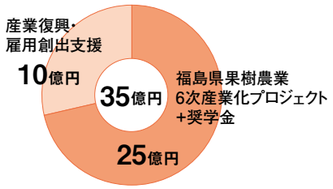
三菱商事復興支援財団の活動

三菱商事は、2011年3月11日の東日本大震災の復興支援活動のため4年間総額100億円の復興支援基金を創設し、被災した地域の状況やニーズに合わせてさまざまな活動を展開してきました。2012年春には当財団を設立し、学生支援奨学金および復興支援助成金を復興支援基金から継承するとともに、被災地の産業復興・雇用創出支援に取り組んでいます。2015年度からは5年間分の活動資金として、当財団に対し35億円の追加拠出を決定しました。従来の活動を継続するとともに、福島県郡山市で新たに「果樹農業6次産業化プロジェクト」(詳細は38－39頁ご参照)を推進していきます。

三菱商事 東日本大震災　復興支援基金
(2011～2014年度)



三菱商事復興支援財団
(2015年度～)



三菱商事復興支援財団 2014－2015

2 希望のいしずえ
——この言葉に込めた私たちの願い

6 産業復興・雇用創出支援

8 Scheme
——被災地の未来に対する投資

9 Special Message
——小泉進次郎内閣府大臣政務官兼
復興大臣政務官

10 Inside Story #1
仙台秋保醸造所

14 Inside Story #2
旭屋

18 Special Interview
会津中央乳業

22 Tohoku Recovery Support Projects
ナカショク／南相馬復興アグリ／
協同水産／しらかわ五葉倶楽部／
サンフレッシュ小泉農園／及新／
桃浦かき生産者／及川商店／
紬／IIE

32 Topics
2012＆2013年度
産業復興・雇用創出支援先のNEWS

38 New Project
果樹農業6次産業化プロジェクト

40 学生支援奨学金

44 復興支援助成金

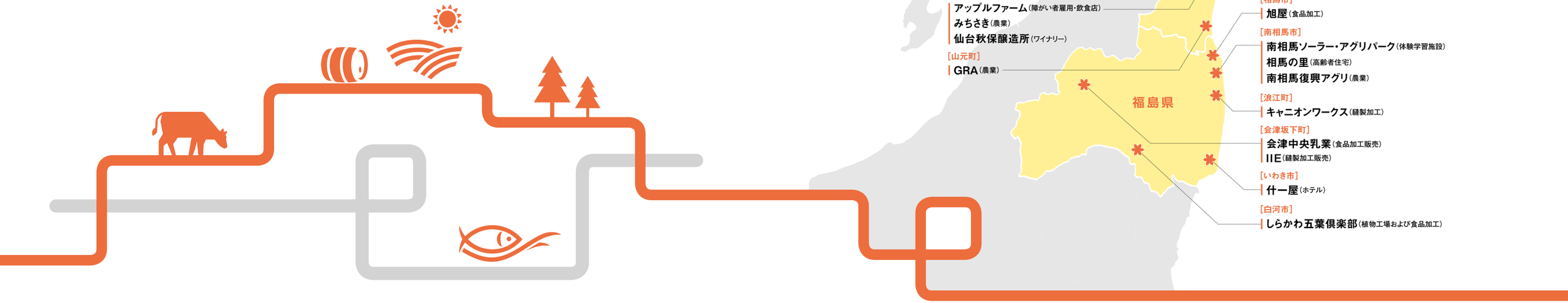
50 Facts & Figures
——2014年度活動データ

54 2014年度財務報告
——貸借対照表

55 『三菱商事復興支援財団』概要

産業復興・雇用創出支援

当財団では、被災地の経済復興に向け、産業再生や雇用創出に寄与する取り組みを展開しています。地元金融機関などと協働し、2012年度から2014年度までの3年間に、事業の再建や新規事業の立ち上げを目指す44の事業者への出資や融資を実施しています。

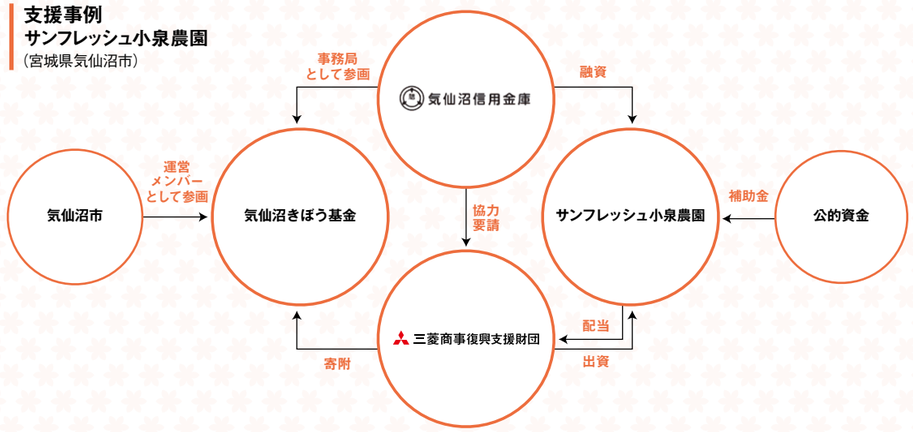


Scheme

被災地の未来に対する投資

産業復興・雇用創出支援では、投融資による活動を行っています。これは返さなくてはならないお金であるが故に生まれる適度な緊張感が、事業の継続を支えていくことにつながると考えたからです。ただし利益を目的とした投資とは一線を画し、事業が軌道に乗って利益を出すまでは配当は猶予します。配当が実現した場合にも、配当分は財団の内部には留保せず、地元自治体や基金などに寄附。復興資金が被災地で循環する仕組みをつくり、地域経済のさらなる自立を促すことを目指しています。
2014年度は、震災から4年目を迎えた被災地の状況に合わせ、新規起業案件の立ち上げや、創業期にある企業の事業拡大に伴う初期投資的費用にも門戸を広げました。

支援事例
サンフレッシュ小泉農園
（宮城県気仙沼市）



復興庁にて

Special Message

内閣府大臣政務官
復興大臣政務官

小泉 進次郎

東日本大震災の発生から4年以上が経過しましたが、復興はまだ道半ばです。

一方で、震災により未曾有の被害を受けた被災地だからこそ、逆境を乗り越え、日本のモデルとなる先進的な「まちづくり」を実現する可能性を秘めています。

しかしながら、このことは、一朝一夕には達成できません。被災地の方々と行政、そして民間企業の方々が力をあわせ、継続的な熱意と忍耐力、さらには長期的な信頼関係を構築することが大切です。

本年3月11日付けの主要新聞に掲載された貴財団の活動を紹介した広告を拝見し、行政では行き届かない幅広い分野において復興支援にご尽力されていることを知りました。

また、昨年7月に仙台市で開催された「東の食の実行会議2014」においても、貴財団の方々と議論を交わし、被災地の復興にかける並々ならぬ熱意と、何よりも被災地との信頼関係を尊重する真摯な態度を感じ取りました。

今後も引き続き、貴財団が復興支援のトップランナーとして御活躍されることを期待しております。

圃場にて（毛利代表）

Inside Story #1 | 仙台秋保醸造所

ワインが持つ力を復興に活かす

復興支援のボランティアに従事しているうちに、宮城県内で唯一となるワイナリー立ち上げへの挑戦を決意した、仙台秋保醸造所の毛利親房代表。ワインが持つどんな力に魅せられたのか伺いました。

ワインには人・地域・文化・産業をつなぎ育む力がある

「とにかくあきらめたくない一心で土地を探していたところ、この場所にたどり着くことができました。運命を感じています」

そう話すのは、仙台秋保醸造所代表の毛利親房。震災当初から、復興支援活動に加わり、状況が少し落ち着くと、瓦礫処理などをテーマにした勉強会に参加していた。その場で、自身と同様に建築業界で働く仲間と出会い、ボランティア活動を続ける一方、被災地全体の活性化を図っていくための復興提案を作成し、行政に働き掛けた。その一つが、震災以前にブドウ生産が行われていた沿岸地域で、ワイナリーをつくることであった。

「国内各地のワイナリーを見て回るうちに、ワインには会話を盛り上げたり、食や文化、伝統工芸、アート、音楽などと融合する力があることを知りました。ワインの持つ力を復興の後押しに活かしたい、ワイナリーを介して、たくさんの人が集い、人とモノ、文化の交流を生み、被災地の復興を応援したいと思いました」

塩害を受けた土地で瓦礫を除去し苗を植樹。ワイナリー設立に向けさまざまな要素を検討して乗り越えようとしたが、しかし塩害の影響は未知数であり、ワインに関し素人であるがゆえ難しい問題も多く、沿岸部では断念せざるを得なかった。山形のワイナリーの勉強会に参加するなどしながら、ワイナリー建設の夢をソーシャルネットワーク上につづっていたところ、イタリアに留学中のある若者から応援メッセージが届いた。この若者こそ、のちに仙台秋保醸造所でブドウ栽培と醸造の責任者となる髙根雄人だった。福島県出身の髙根は、宮城大学で食産業学を学習後、新潟のワイナリーを経て、イタリアで醸造を学んでいたのだった。

2014年には1,200本、
2015年春には2,500本の苗木が植栽された

「メールのやりとりをするうちに、2014年に帰国予定で、就職活動中であることを知りました。土地を探しながら、プロジェクトに加わってもらうことを考え始めました」

多くの土地を見に行き、実際に土を手に取ってみた。選定が思うように進まない中、仙台の秋保町で偶然にブドウ畑を発見した。その農家は6年前からワイン

用ブドウを育てていた。秋保の気候風土、病害虫対策など、経験に基づいた貴重なアドバイスをもらった。

秋保温泉は伊達政宗も愛した名湯として知られ、仙台駅から車で約30分と地の利も良い。県内の利用客も多いのは、宮城の良さをPRし、地産地消の考えを進めたい毛利にとって魅力的だった。秋保の町内会長が毛利の知り合いだったこともあり、候補地を探してもらったところ、地権者4人がいずれも快く貸してくれるところが見つかった。あきらめかけていたワインづくりを具体的に始動させることができたのだった。

新しいモノを創出し発信する場所へ

2014年4月。秋保の明るい丘陵地で、ブドウの苗木を植える毛利と髙根の姿があった。友人や知人が30人以上訪れ、ボランティアとして苗木の植え付けを手伝ってくれた。

2ヘクタールの土地を確保したが、初年度は0.4ヘクタールを畑に充てた。メルローやピノグリをはじめ、シラー、タナ、ゲヴュルツトラミネール、シャルドネの6種、合計1,200本を植えた。

「宮城は、ワイナリーの先進県である長野や山梨より雨が多い。ただ、この場所は川風の恩恵を受け、傾斜地で水はけが良く、湿気がこもりにくい。加えて秋保の気候は冷涼なため、じっくりとブドウを完熟させることができます」

仙台市長も視察に訪れた（2014年9月）

圃場の開拓（左）や苗木の植栽を手伝う三菱商事の社員ボランティアの様子

同じ年の6月には、当財団が事業費の一部出資を決めた。資金面から支えるのみならず、いっしょに汗を流しながら毛利の夢であるワイナリーを実現させたいと、11月には三菱商事グループの社員ボランティアも訪れ、東側へ農地を広げるための伐採などを手伝った。2015年の春には2,500本の苗木を植えた。同時に醸造所の建設に着手し、秋には竣工予定。醸造所には、毛利のこだわりでセミナースペースを設けることを考えている。

「県内でわれわれ以外にも、ワイナリー設立を目指す方々がおり、研修受け入れの要望もあるので、いっしょに学びながら、宮城県に日本ワインの文化を普及させていきたいと考えています。宮城のこだわりの逸品とワインとのコラボレーションや、コラボから生まれる新商品開発にも挑戦していきたい。ふるさとに貢献するため、仙台秋保醸造所というワイナリーが、新しいモノを創出し発信する場所となっていくことを夢見ています」

（敬称略）

株式会社仙台秋保醸造所

設立	2014年3月10日
所在地	宮城県仙台市太白区茂庭台3-2-10
従業員	3名
当財団からの投融資額	5,000万円
当財団の主なパートナー	七十七銀行

震災後、宮城県初のワイナリーとして交流人口の増加に寄与するとともに、東北で生産された果樹原料を積極的に活用して醸造酒を製造することで、被災地の産業復興を目指す。

工場の前で（左端が鈴木代表）

Inside Story #2 ｜ 旭屋

郷土の味「なみえ焼そば」を守る

福島県浪江町で創業以来、郷土の味「なみえ焼そば」に欠かせない太麺を供給し続けてきた旭屋。東日本大震災による原発事故により全町避難を余儀なくされましたが、新天地の相馬市で再出発を果たしました。

「あの焼そばを食べたい」

浪江の焼そばは、太い。

「地元の人にとっては当たり前なんだけど」と、旭屋を営む鈴木昭孝代表は笑う。旭屋は浪江町で創業し、80年近い歴史を誇る製麺会社だ。鈴木は浪江町で生まれ、地元の高校を卒業後、東京で大学生活を過ごした。24歳で家業の製麺会社に入り、27歳で代表社員となって以来、焼そばのみならず、うどんやそば、ラーメンの麺の製造を手掛け、地域一帯の学校や病院、企業、スーパーマーケットなどに納入してきた。

「学校だと、他の町から異動してくる栄養士さんも少なくない。そんな学校給食の現場に納品しようとすると、本当に焼そばですかと目を丸くするんですよ」

そういうくらいだから、福島県内でもめずらしいのだろう。旭屋でつくる麺は最大約4ミリメートルの太さ。まるで、うどんだ。

この極太麺を使ったなみえ焼そばは、地元に根づいた味である。町民の多くが農業や漁業、林業など第1次産業に従事していた時代、安く、うまく、腹持ちの良いものをと考案された。

「50年くらい前から、地域の食堂や飲み屋の名物メニューになったんです。具材は豚肉と野菜を一種。シンプルなほどおいしい。家庭では旬の野菜を使います。キュウリでもおいしいんですよ」

ユニークな焼そばで町興しをと、地元有志が動き出したのは2008年のこと。浪江焼麺太国を立ち上げ、なみえ焼そばの規格を決めた。とは言っても、「太麺を使い、具材は麺と同量のモヤシと豚バラ肉のみ。味付けは濃厚ソースで」と、いたって緩やかなもの。24もの店が、それぞれ独自のなみえ焼そばを売り出し、2010年にはご当地グルメで町興しを目指した日本最大級のイベント『B-1グランプリ』への出展も果たした。

そんな時に東日本大震災が襲った。福島原発の事故で、鈴木も家族や社員とともに着の身着のままで故郷を離れ、親戚などを頼って首都圏を転々としたのち、半年後に郡山市にようやく落ち着いた。

「製麺はいわば地域産業。使ってくれる地元あってのもんだから、再開は難しいと思っていた」が、「あの焼そばを食べたい」という地元の人やファンからの声が届く。「何とかお応えしたくて、委託製造してくれる業者さんを探してなみえ焼そばを絶やさないようにしていました」と、鈴木は明かす。2013年4月には、浪江町時代のスタッフとともに委託製造・販売を本格稼働した。

「浪江町とのつながりを届けたい」

この間、浪江焼麺太国は2011年秋にもB-1グランプリに出展。翌年には第4位、そして2013年にはゴールドグランプリを獲得した。浪江町のソウルフードが、いつしか復興のシンボルとなっていた。

なみえ焼そばは自分の店で麺を打っていた食堂も少なくなかったが、町の人口が激減する一方で、他地域からの作業員が増えるなど、客層が大幅に変わってしまい、大半の食堂は再開のめどが立っていない。それでも鈴木は発祥の地から遠くない、浪江町の工場から車で40分の相馬市に新工場を開設した。

「小さな食品会社は自ら試作品を製造し、商品開発をして、商売の幅を広げていかなければ生き残れませんからね」

次女の娘婿である後継者とともに、創業者であり、父親である旭から受け継いだ会社を続けたいという思いもあった。浪江町に残した製麺機は使えず、資材や建設費の高騰もあって費用がかさんだが、当財団が地元のあぶくま信用金庫とともに支えた。

おみやげとしても人気の『なみえ焼そば』。太麺が最大の特徴

相馬に新設された工場での作業の様子

2014年秋に郡山市で開かれたB-1グランプリで旭屋が麺を提供したブースには長い行列ができた

新工場は2014年8月に完成。震災前、町内に2社あったなみえ焼そばの製麺会社のうち、操業しているのは旭屋のみ。太麺が最大の特徴のなみえ焼そばは、粉の質や粉に混ぜるかん水の配合比率などに細心の注意が必要で、「つくり慣れた地元業者の麺が一番」との自負がある。同年10月に郡山市で開かれたB-1グランプリでは、さっそく福島県産小麦100%使用の麺を提供し、相馬地域の製麺を担うべく再出発を果たした。

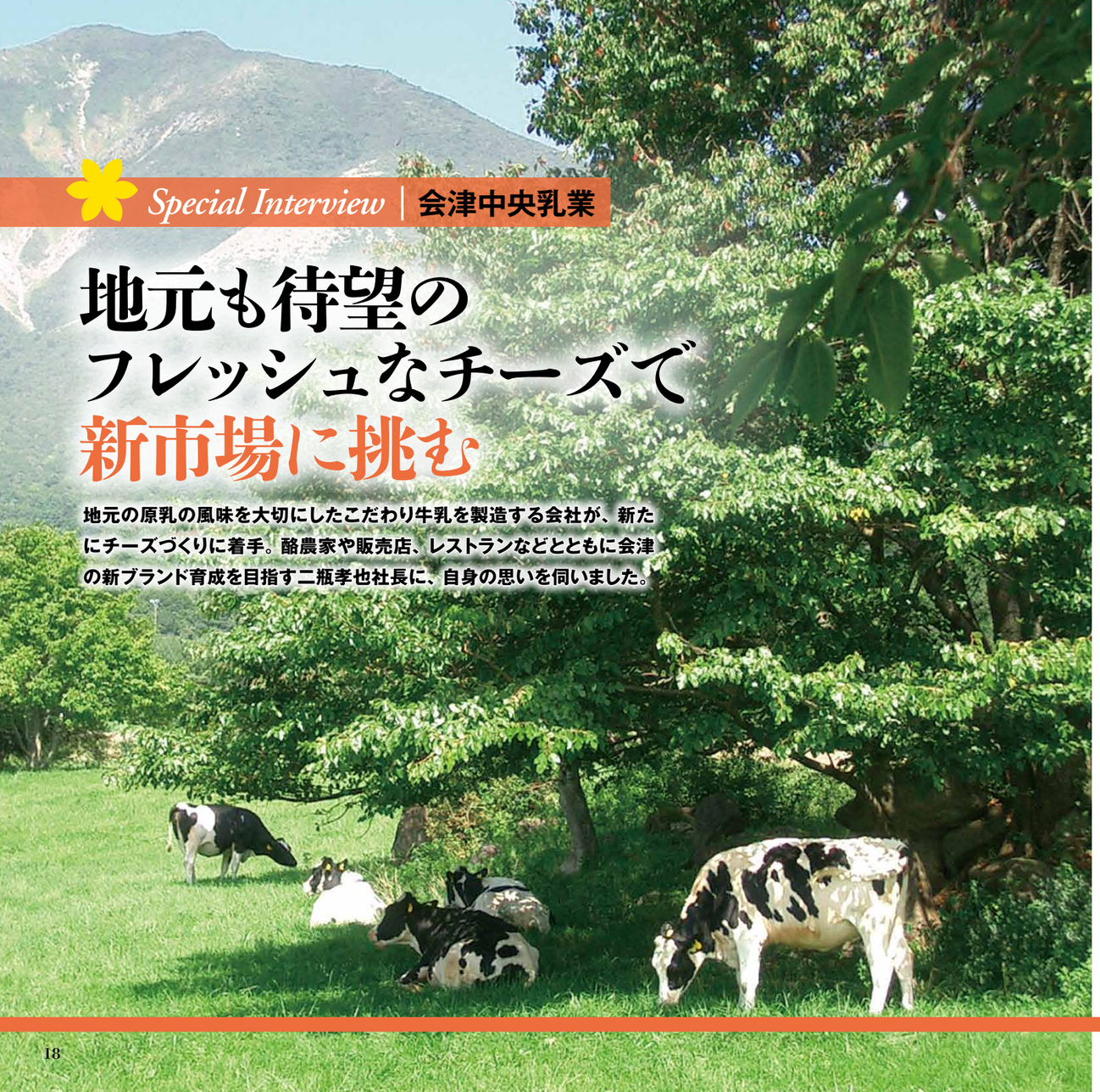
「町への帰還の道のりは厳しいが、浪江の味は守り抜く。なみえ焼そばをつくり続けることで、浪江町とのつながりを届けたい。浪江町で80年近く製麺業を営んできた旭屋には、そんな責任がある気がしています。新天地の相馬にも、小女子や青のりなど地域の特産物はいろいろあります。これらを使って、相馬ならではの新しい郷土の味も開発していきたいですね」

（敬称略）

合資会社旭屋

設立	1970年4月10日（1935年創業）
相馬工場所在地	福島県相馬市馬場野雨田166
従業員	6名
当財団からの投融資額	5,000万円
当財団の主なパートナー	あぶくま信用金庫

福島県浪江町から相馬市に工場を移転して事業を再開。ご当地グルメ『B-1グランプリ』を受賞した『なみえ焼そば』を消費者向け主力商品にしている。



Special Interview | 会津中央乳業

地元も待望のフレッシュなチーズで新市場に挑む

地元の原乳の風味を大切にしたこだわり牛乳を製造する会社が、新たにチーズづくりに着手。酪農家や販売店、レストランなどとともに会津の新ブランド育成を目指す二瓶孝也社長に、自身の思いを伺いました。

震災により県外での販売が７割減少

――東日本大震災の被災状況を教えてください。

主力商品「べこの乳」の特徴は、地元産の原乳を酪農家から毎日直接受け入れ、低温でじっくり殺菌している点です。多くのお客様に支持され、県外への出荷を着実に増やしていましたが、震災で状況が一変しました。地元の原乳供給がストップする中、病院やスーパーなどの地元需要に応えるため原乳を岩手から運んでもらい、生産が止まったのはわずか４日間でしたが、しかし本当の苦労はこの後で、福島県各地の他の農畜産物同様に、風評被害の影響で県外での販売が大きく落ち込んでいきました。私自身、定期的に首都圏を訪れ販路回復に励んできましたが、なかなか思うようにいかず、県外での販売は未だ震災前の３割程度にとどまっています。

全会津の約３分の２の原乳を取り扱い、素材、検査、製法の一つ一つにこだわりながら製造している

――その厳しい状況をどのように打開されようとしているのですか?

チーズの新ブランド立ち上げに取り組んでいます。地元のレストランからも、「地産地消がお客様に喜ばれる。ぜひチーズを作って」と要望され、試作してみると、得意のヨーグルト作りに技術が似ていて、強い手応えを感じました。引っ張ると繊維がほどけるようにさけ、口当たりはなめらかで、牛乳の風味も生きている。試作品を口にした関係者からは、「他にない味わい。フレッシュでおいしい」という声が多く聞かれました。問題は資金でしたが、取引銀行が力強くバックアップしてくださり、財団の出資も得て、製造設備を導入することができました。会社をともに支える二人の息子も意気盛んで、地元の温泉地では新しい特産品を待ちわび、新メニューをもくろむレストランもあります。新市場への参入は大きな挑戦ですが、会津の新ブランドを、酪農家と製・販が一体となって育てていきたいと考えています。

常に励ましてくれたお客様の声

―― 会津中央乳業では、商品やトラック、名刺にも、笑顔の女の子のイラストが使われています。モデルはいらっしゃるのですか。

戦前、創始者で父親の四郎は、満州鉄道で働いていたのですが、終戦と同時にシベリアへ抑留されました。母は私を身ごもっていましたが、引き揚げ船に乗るため、私の姉を連れて中国各地を逃げ回り、しかし食べ物も手に入らず、水も満足に飲めない日々が続き、やせ細った姉は栄養失調で他界しました。母は悲しみに暮れる間もなく、中国の避難所で私を出産すると、命からがら日本へ、そして故郷会津に帰ってきました。3年後、シベリアから生還した父は、会津三島町の実家に住む兄から毎日搾りたての牛乳を分けてもらい、鍋で沸かして瓶に詰めて販売する仕事を始めました。イラストのモデルは私の姉で、乳業会社を始めた父親の、「あの時、牛乳があれば……」との子を思う親の切ない思いが込められています。

―― こだわりの商品作りについてお聞かせください。

原乳本来の風味とコクにこだわった「べこの乳」ブランドは、現在の工場に移転する前に、会社の顔となる高品質の商品を作りたいと考え開発したものです。目指したのは、先代が牛乳店を始めた頃の風味とコク。

工場は年間約2,000人もの見学者を迎える人気スポットでもある

こだわりの
商品ラインアップ

二瓶社長（右）と営業部の二瓶孝文リーダー

約10年の試行錯誤を経て「保持式」という殺菌方法にたどり着き、ほのかな甘さが口いっぱいに広がる昔の味を再現することに成功し、1987年から販売しています。

―― 牛乳以外の商品は?

「べこの乳」ができて、お客様のうれしい声が届くようになると、もっとアイテムを増やしもっとお客様を喜ばせたいと思うようになりました。上質のコーヒー豆を使用し、牛乳のコクを活かしたコーヒー牛乳「コーヒー特急」や、安定剤や香料などの添加物を一切使わず、濃厚でなめらかな味わいのヨーグルト「会津の雪」は、そんなはやる気持ちを抑えながら試作品を作り続けて完成させたものです。

―― 今後の抱負を聞かせてください。

振り返ると1948年に先代が創業してから60余年。道のりは決して順風満帆ではありませんでした。苦しみの真っ只中にいる時、私たちを励ましてくれたのは、「忘れられない味」「一度口にすると、また食べたくなる」というお客様の声でした。震災によってたくさんのものを失いました。しかし、シンボルマークのイラストに込めた思いと、「べこの乳」を大切に思う私たちと酪農家の皆さんの思いは、何があっても変わりません。さらに高品質の商品を開発し、「おいしいものを、おいしいままに」お客様にお届けしたいと思っています。

会津中央乳業株式会社

設立	1948年4月1日
所在地	福島県河沼郡会津坂下町大字金上字辰巳19-1
従業員	27名
当財団からの投融資額	1,200万円
当財団の主なパートナー	東邦銀行

会津の原乳にこだわり、ワンランク上の乳製品を生産。当財団からの資金はチーズ製造事業立ち上げに活用する。新ブランドの訴求により、既存商品の売り上げ回復も目指す。

イカリングづくりの様子

三陸のど真ん中から海の幸を全国へ

ナカショク

津波で工場が全壊しましたが、2012年に再開を果たしました。新工場には、主力となるイカ唐揚げやサンマ竜田揚げを1時間当たり500kg生産できる設備を導入。高鮮度で冷凍できる凍結機も備え、震災前より高品質な商品生産が可能となりました。当財団の資金を活用して、秋から冬の水揚げシーズンに一括仕入れできる体制を構築し、生産効率の向上を目指しています。

株式会社ナカショク

設立	1999年9月1日
所在地	岩手県上閉伊郡大槌町小鎚第28地割161-1
従業員	39名
当財団からの投融資額	4,000万円
当財団の主なパートナー	岩手銀行

イカの加工などを手掛ける水産加工会社。津波で工場が全壊したが、2012年に再開。当財団からの資金を活用し、一括仕入れ体制を構築して生産効率の向上を目指す。

南相馬復興アグリ株式会社

設立	2013年1月8日
所在地	福島県南相馬市原町区下太田字川内迫310-6
従業員	35名（予定）
当財団からの投融資額	5,000万円
当財団の主なパートナー	あぶくま信用金庫

菜園を運営し生鮮トマトの生産・卸売りを行う。南相馬市の農業復興と農業経営人材の育成を目指す。

新設された約2.4ヘクタールの工業用地に、栽培面積約1.5ヘクタールの菜園を建設。地元関係者と連携し、生鮮トマトの生産・卸売りを行い、南相馬市の地域農業の一層の復興と成長、風評被害払拭への貢献を目指しています。地元中心に30名以上の雇用を創出するとともに、菜園経営の実践を通じて農業技術と経営管理の両面における人材育成に取り組んでいきます。

再生に向けた種まきが始まった

南相馬復興アグリ「南相馬トマト菜園」

菜園完成予想図と菜園内部イメージ

工場外観

サメの水揚げを安定生産で支える

協同水産

全国でも有数のサメの水揚げ量を誇る気仙沼で、独自の製法の特許を保有し、高品質なすり身の製造が可能な水産加工メーカーです。津波により壊滅的な被害を受けましたが、2012年2月に事業を再開。当財団からの資金は、補助金対象外の屋根の修繕や、一部設備の更新に活用され、生産効率の向上を目指しています。

協同水産株式会社

設立	1984年11月26日
所在地	宮城県気仙沼市波路上内沼16
従業員	45名
当財団からの投融資額	2,000万円
当財団の主なパートナー	岩手銀行

サメの加工を手掛ける水産会社。津波で壊滅的な被害を受けたが、2012年に気仙沼の工場を再開。当財団からの資金を活用し、一部設備を更新して作業効率向上を目指す。

株式会社しらかわ五葉倶楽部

設立	2013年3月11日
所在地	福島県白河市舟田薬師下42
従業員	25名
当財団からの投融資額	5,000万円
当財団の主なパートナー	東邦銀行

風評被害払拭を目的に、植物工場で栽培するホウレンソウを使用し、高齢者向けムース食品の加工販売までを手掛ける6次産業化に取り組む。

風評被害払拭を目的に、新設した植物工場で栽培するホウレンソウを使用し、高齢者向けムース食品の加工販売までを手掛ける6次産業化を推進しています。原料には他に、栽培方法や基準を厳格に定めた契約を結んだ地元農家のブロッコリーやトマトも使用。地域の病院や介護施設に販売するほか、配食サービスも行っていく予定です。植物工場と加工場を軸に、将来的には給食センターや高齢者福祉施設事業の展開も計画しています。

野菜栽培から食品加工まで一体となったハイテク工場

しらかわ五葉倶楽部

工場外観

建設予定地

水田地帯を水耕栽培施設に再生

サンフレッシュ小泉農園

全世帯の7割以上が大規模半壊の被害を受けた水田地帯での、トマトの水耕栽培事業の新規立ち上げ支援。設備再導入負担と採算性を理由に営農継続を断念せざるを得ない農家も多く、耕作放棄地の拡大防止、環境保全、コミュニティ維持の観点から計画されました。大規模水耕栽培施設2棟を建設し、被災農家3名の常時雇用と、約30名のパート雇用を予定しています。

農業生産法人株式会社サンフレッシュ小泉農園

設立	2014年10月8日
所在地	宮城県気仙沼市本吉町北明戸7番地3
従業員	5名
当財団からの投融資額	5,000万円
当財団の主なパートナー	気仙沼信用金庫

震災後、壊滅的な被害を受けた水田地帯に、新たにトマトの大規模水耕栽培施設を建設。新規事業立ち上げによって約30名の雇用創出を見込む。

株式会社及新

設立	1989年6月1日
所在地	宮城県本吉郡南三陸町歌津字管の浜40番地1
従業員	26名
当財団からの投融資額	5,000万円
当財団の主なパートナー	気仙沼信用金庫

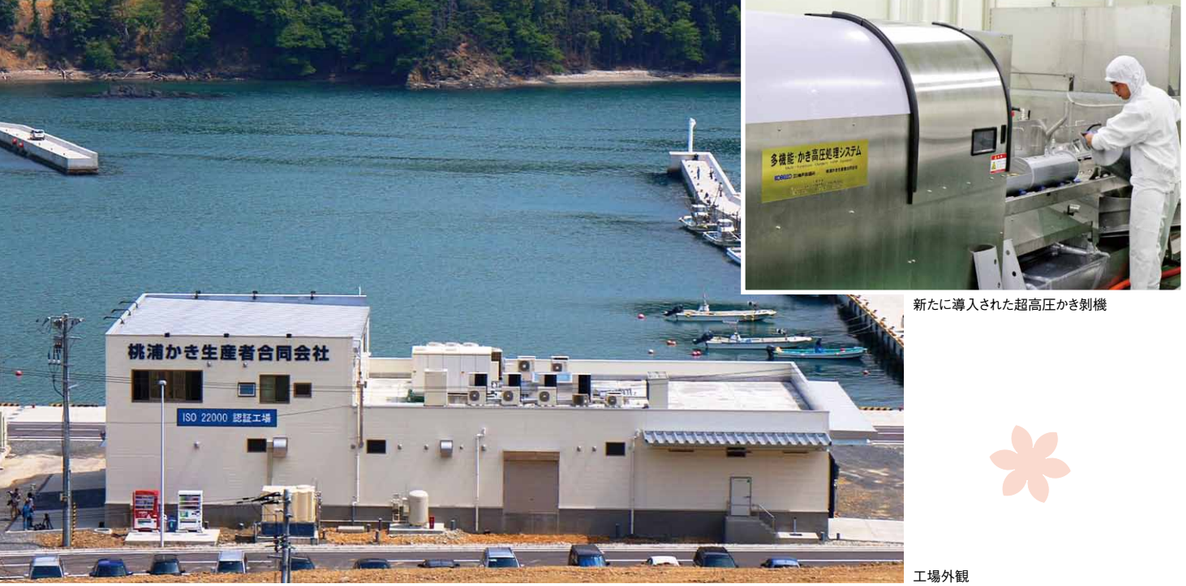
工場新設支援。地元産のメカブのみを仕入れることで浜値を安定させ、生産者の経営安定と生産意欲向上による雇用増加を町と共に進める計画。約25名の雇用が創出される予定。

本社工場と店舗、第二工場といった建物全てと、今までの顧客データまでもが震災で流出。2012年3月、新工場を建設し営業を再開しています。当財団の資金を活用して、さらに工場を新設することを計画。新工場では地元メカブのみを取り扱うことで浜値を安定させ、生産者の経営安定と生産意欲向上による雇用増加を町と共に進めていく考えです。

看板一つから始まった事業再建

及新

工場での作業風景



新たに導入された超高圧かき剝機

工場外観

ITと機械化で新しい養殖事業の確立を目指す

桃浦かき生産者

水産特区により漁業権を取得し、かきの生産から加工、販売まで一体で行う6次産業化に取り組んでいます。養殖施設や漁船、加工場、機材の生産体制を整備。かきの殻を剥く人手不足により生産量が計画を大幅に下回る状況のため、超高圧かき剥機を導入しました。機械化によって課題を解決し、食中毒原因菌の殺菌効果への期待などが評価され、「新しい東北」復興ビジネスコンテスト（復興庁主催）で優秀賞を受賞しています。

桃浦かき生産者合同会社

設立	2012年8月30日
所在地	宮城県石巻市桃浦字上ノ山66番地34
従業員	31名
当財団からの投融資額	3,000万円
当財団の主なパートナー	七十七銀行

水産特区により漁業権を取得し、かきの生産から加工、販売まで一体で行う6次産業化に取り組む。当財団の資金を活用し、超高圧かき剥機を導入して事業拡大を目指す。

株式会社及川商店

設立	1978年9月16日
所在地	宮城県本吉郡南三陸町歌津字枡沢16番地（枡沢工場）
従業員	30名
当財団からの投融資額	5,000万円
当財団の主なパートナー	気仙沼信用金庫

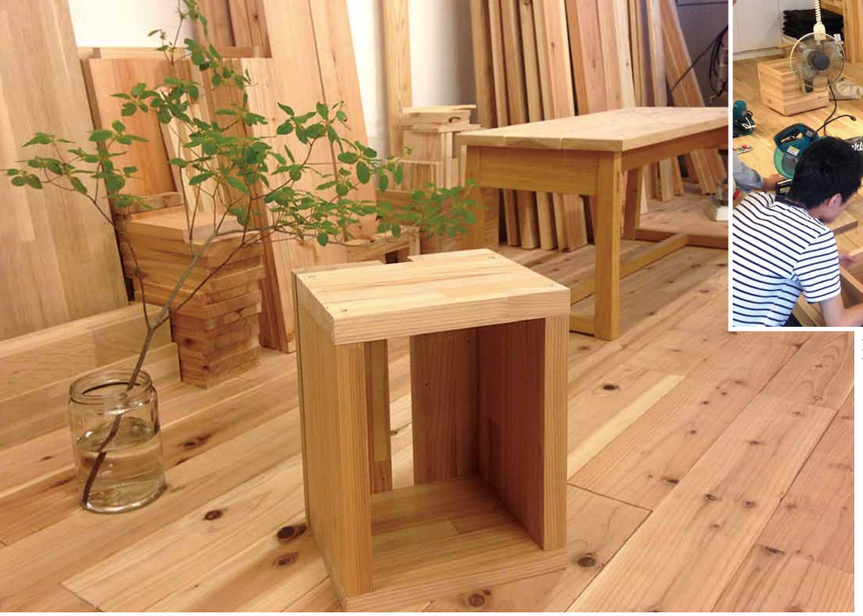
南三陸町志津川地区に造成される水産加工団地への本社工場建設を支援。漁業経営者の経営安定、水産物の販路回復につながり、工場再建で60名の新規雇用が見込まれている。

震災で4つの工場を流失。被害が比較的軽微だった残り1つの工場を活用し、B to C事業へ進出するなど工夫しながら、業績回復に努めてきました。南三陸町志津川地区に水産加工団地が整備されるのに合わせ、本社工場再建を計画。工場再建によって60名の新規雇用が見込まれ、水産物の販路回復、地元漁業生産者の経営安定など、南三陸町の復興加速への寄与が期待されています。

工夫と執念でこぎつけた工場再建

及川商店

被災を免れた工場の外観



東京の販売拠点『CABIN』
でのワークショップの様子

ものづくりでつむぐ新産業

紬

岩手県陸前高田市・住田町・大船渡市一帯の地域資源である気仙杉の未利用材を有効活用し、家具から住宅まで組み立てられる木材キット「KUMIKI」シリーズを開発して製造販売。2013年に起業した会社で、部品の外注を通じ福祉作業所も商流に取り込んでいます。web販売が中心でしたが、東京に販売拠点となるショールーム兼シェア工房をオープン。ワークショップ開催などによるファンづくりに取り組みながら、事業拡大を目指しています。

株式会社紬

設立	2013年3月21日
所在地	岩手県陸前高田市竹駒町字仲の沢17-1（長谷川建設内）
従業員	3名
当財団からの投融資額	500万円
当財団の主なパートナー	気仙沼信用金庫

気仙杉を活用した床材や家具キットなどの製造販売事業者。震災後、起業した企業で、部品の外注を通じ福祉作業所も商流に取り込んでいる。

株式会社IIE

設立	2013年3月11日
所在地	福島県河沼郡会津坂下町大字青木字宮田205
従業員	5名
当財団からの投融資額	700万円

震災後に起業した、伝統工芸会津木綿を用いた雑貨製作を行う事業者。会津木綿に加え、新たな地域資源を用いた商品を開発し雇用の創出と地域ブランドの創造を目指す。

伝統工芸会津木綿を用いた雑貨商品の製作を通し、避難者向けの生きがいと仕事づくりを行う事業としてスタートしましたが、2013年に株式会社化。既存の会津木綿商品を中心にネット販売と卸を通して、会津のもの、東北のものから新しい商品ラインアップの拡充に取り組んでいます。雇用の創出と地域ブランドの創造を通じて、福島の復興への貢献を目指しています。

伝統の会津木綿がつくる生きがい

IIE

一番の売れ筋商品のストール

産業復興支援先トピックス

宮城
気仙沼市

気仙沼産業センター

2014年4月2日、「気仙沼 海の市」2階に「シャークミュージアム」が再開しました（「気仙沼 海の市」のグランドオープンは7月19日）。約70人が出席して式典が開かれ、清水社長は「基幹産業である水産と観光を復興させる一歩になる。全国に気仙沼の魅力をアピールし、多くの人が集う施設にしたい」と挨拶。同じフロアには、タッチパネル式の観光情報端末機を設置した観光センターが新設されました。

上：「気仙沼 海の市」外観　下：テープカットの様子

気仙沼市観光センター

福島
浪江町

キャニオンワークス

2014年4月11日、いわき市の新工場（約1万㎡）の完成式が開催されました。半谷社長は「不安はあるが、従業員と共に、これまで受けた多くの人の応援に応えていく。将来的には浪江の工場も再開したい」と挨拶。浪江工場で働いていた従業員16名を継続雇用し、同年春にいわき市の専門学校を卒業した新入社員3名を含む従業員7名を新たに雇用しました。

上：新工場外観　下：第1工場での作業の様子

宮城
石巻市

「牡蠣鉄板 HASEKURA」

協働マネジメント

2014年5月3日、地産地消型のレストラン「牡蠣鉄板 HASEKURA」（約150㎡、45席）を開店しました。石巻特産の牡蠣のほか、魚介類から肉や野菜まで東北の食材を使用。オープニングセレモニーで布施社長は、「石巻の食材をアピールするとともに、地域に愛される店にしたい」と抱負を語りました。

プラント外観

宮城
気仙沼市

気仙沼地域
エネルギー開発

2014年3月末に木質バイオマス発電のプラントが完成し、試運転を開始しました。発電規模は800キロワット。電気は固定買取制度を活用して売電します。年間を通して安定稼働させると、一般家庭約1,500世帯分に相当する電力の供給が可能。災害時のエネルギーとしても活用が期待されています。

大船渡温泉外観

岩手
大船渡市

海楽荘

2014年7月31日、ホテル「大船渡温泉」をオープンしました。約30名を新規雇用した大船渡温泉は、三陸自動車道碁石海岸ICから車で約3分に位置。5階建て69室、230人の宿泊が可能で、地元で獲れる新鮮な魚介類を使った豪快な料理が特長です。地元の人も観光客も集う、憩いと交流の場となることを目指しています。

大浴場

福島
南相馬市

南相馬
ソーラー・アグリパーク

自然エネルギーをテーマとした小中学生の体験学習に加えて、2014年5月、高校生のためのオープンスクールを開始しました。社会的事業の実現に必要な自分の志を明確にすること、そしてそれを仕組みにする力を身に付けるため、福島県内の高校生が参加しています。また2014年度から、企業の社員研修の受け入れも開始しました。

新たに水力発電体験装置も導入された

高校生のためのオープンスクールの様子

ツインタイプの客室

福島
いわき市

什一屋

2014年8月19日、富岡町からいわき市に移転し、「サンライズインいわき」をオープンして事業を再開しました。新ホテルは、JRいわき駅から徒歩5分、9階建て全71室。富岡町の旧ホテル従業員3名を含めた22人を新たに雇用しました。

相馬の里

福島
南相馬市

グループホーム「オリーブの家」が完成。部屋数は18で、2015年1月より入居者の募集を開始しました。敷地内にオリーブも植樹。地元の名産とすべく、オリーブの会も組織され、地域にオリーブを広める活動を始めました

オリーブの家外観

新館の外観

岩手
釜石市

宝来館

2014年12月末、新館をオープン。露天風呂とテラスが付いた特別客室のほか、露天風呂付大浴場、食事処「松の根亭」を新設しました。松の根亭には、お客様の目の前で調理できるライブキッチンも設置。新館オープンに合わせ、食事と入浴がセットになった日帰りサービスプランを始めました。

森下水産

岩手
大船渡市

2015年2月14日、安倍首相が訪れ、再建された製造ラインを視察しました。また19日には関係者130名を集め、第三食品工場の竣工式を開催。新工場（延べ床面積2,830㎡）には、魚の蒸し焼機や、X線を使った検査装置なども設置されました。森下社長は、「大船渡のおいしい魚を食べやすい商品にして届ける。雇用創出にも貢献していきたい」と抱負を語りました。約20人の従業員が働き、今後は50人規模の生産体制を目指します。

竣工式

新工場での
作業の様子

6次産業化プロジェクト始動！

～地域と連携し、果樹農業の新たなモデルを創出～

Future From Fukushima.
ふくしまから
はじめよう。

2015年2月、当財団は郡山市と連携協定を結び、福島の果樹を使った「6次産業化プロジェクト」を始動しました。

同プロジェクトは、当財団が郡山市に最大生産能力2万5,000ℓ／年の醸造所を建設。地元農家が生産する桃や梨、リンゴ、ブドウなどを年間30～50トン調達し、リキュールとワインを製造・販売するものです。果樹の生産から加工・販売まで一体的に運営する新たな事業モデル（下図）を構築し、農産物や地元ブランドの付加価値を高めていきます。

醸造所は2015年秋に稼働開始予定。当面はリキュールとワイン各6,000ℓを生産します。福島県内での地産地消から始め、販路拡大を目指していきます。

■6次産業化モデルの確立へ

1次産業（生産）
生食用果実の利活用を図るとともに、新たにワイン用ブドウの生産農家を育成する

×

2次産業（加工）
地元の果実を原料とした加工商品（ワイン・リキュールなど）を製造する

×

3次産業（販売）
醸造された加工商品の販路を開拓する

＝

6次産業
生産・加工・販売を一体化し、農産物や地元ブランドの付加価値を高め、雇用創出や地域経済の活性化を促進する

イノベーションにつなげたい

郡山市
品川 萬里 市長

農家が新分野へチャレンジするいいきっかけ。新しい農業のかたちを創る、願ってもないプロジェクトです。イノベーションにつなげたい。行政や経済界を挙げてプロジェクト成功に協力していきます。

6次産業化が地方創生の鍵に

福島大学
小山 良太 教授

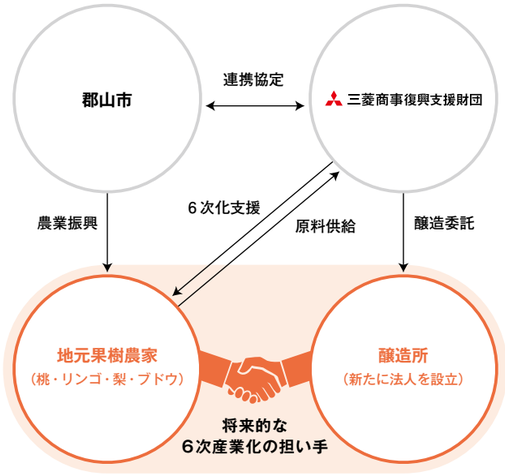
海外の農家は多角経営で成り立っています。農村の経済を支えるのは中小の農家で、農業の6次産業化は新しいビジネスモデルとして大変重要。このようなプロジェクトが地方創生の鍵になるはずです。

初挑戦だが良いものを作りたい

地元農家
中尾 秀明 さん

ワインには夢がある。最初は小規模かもしれないが、前向きに取り組み、今後の活路を見いだしたい。ワイン用ブドウ栽培は初めての挑戦だが、良いものをつくっていきたいと思います。

事業の全体像



新しい道を開く起爆剤に

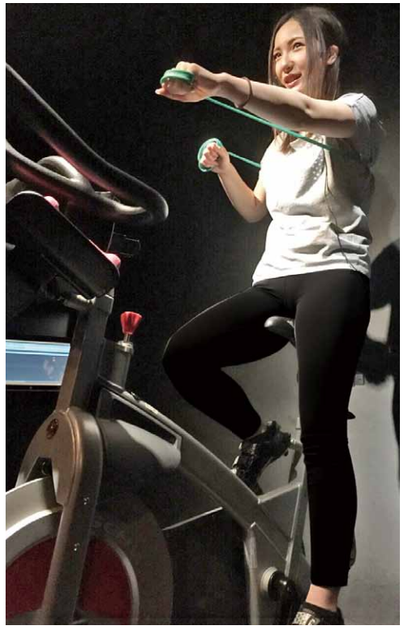
地元農家
橋本 寿一 ご夫妻

6次化の実現はたやすくないが、誰かが風穴を開けなければ前に進まない。若い世代に引き継いでいくため、福島の農業に新しい道を開く起爆剤になればうれしい。

学生支援奨学金

当財団では、被災により修学が困難となった学生を支援するため、学生支援奨学金制度を設けています。国内の大学生を対象に、月額10万円を支給（1年間）。2014年度は181校の994名へ、2011年度からの累計で3,695名に奨学金を給付しました。夢の実現に向かって進む、奨学生の声を紹介します。

（2015年度は新規募集は行っていません）



就職したスポーツジムにて

フィットネスで楽しく体を動かし皆を笑顔にしていきたい

宮城県石巻市　2015年3月卒業　**佐藤 優名**さん

私の家は石巻の海のすぐ近くにあり、自宅も、父が経営していたクリーニング店も津波で全て流されて失ってしまいました。

震災後、私はもっと今を大切に生きようと思うようになり、いろいろなことに幅広くチャレンジできる仙台の短期大学に入学しました。短大から自宅が離れた場所にあったため、私は仙台で独り暮らしを始めました。少しでも親の経済的負担を減らしたいと考え、三菱商事復興支援財団の奨学金制度に申し込みました。奨学金のおかげで、心に余裕を持って日々を過ごすことができ、深く感謝しています。

短大卒業後の現在は、多くの人に楽しんでエクササイズをしていただく場を提供するために、スポーツジムのインストラクターをしています。首都圏を中心にした店舗展開なので、いつか東北各地にも店舗ができたら地元に帰り、立ち上げから参加したいです。また、普段運動されない方にも気軽に通っていただき、フィットネスでこんなに楽しく体を動かすことができるということをより多くの人たちに知ってもらいたいと思っています。そして、皆様を笑顔にしていきたいです。

大学のキャンパスにて

震災で報道の力、言葉の力を実感

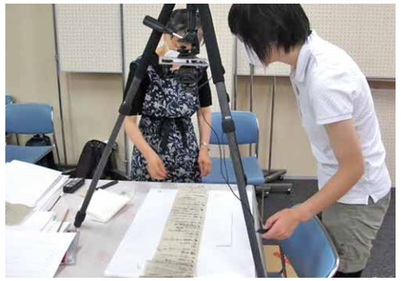
宮城県石巻市　在学中（大学３年生）　**佐藤　亘**さん

東日本大震災で、私の出身地である石巻市は津波などによる大きな被害を受け、私自身も住んでいた家を失いました。家族は幸い皆無事でしたが、未だに仮設住宅での生活を送っています。

震災後、経済的な不安から大学進学を諦めたこともありましたが、父は私を大学に行かせてくれました。今では奨学金のおかげで経済的負担もだいぶ軽くなり、勉学に集中することができています。

大学では経済学部に在籍し、経済学の基本的な理論から最近話題となっているTPPや地方創生など、幅広く勉強しています。今年の1月にはITパスポートという国家資格にも合格し、勉強の成果を一つの形として残すことができました。

私は現在、報道や広告などの職業に就きたいと考えています。震災後、多くの支援や応援のメッセージが全国から送られてきた時、私は報道の力、言葉の力の大きさを感じました。私も自分の言葉で多くの人に何かを伝えられる人になりたいです。この夢を実現させるために、勉強はもちろん人間性も磨いていけるように、今後の大学生活を大切にしていきたいです。



NPO活動で郷土の古文書を分析

古文書研究という二度とない貴重な経験ができた学生時代

岩手県陸前高田市　2015年３月卒業　**熊谷　綾**さん

私は高校の卒業式が終わった春休みに、岩手県陸前高田市で東日本大震災を経験しました。幸いなことに家族は全員無事でしたが、大勢の方々が亡くなり、それまで暮らした町並みも様変わりしてしまったのは大きな衝撃でした。

不安の中で進学した大学では、三陸沿岸部の「なりわい」に興味を持ち、日本史を専攻しました。古文書などをクリーニングする活動に参加する中で、郷土の財産を大切にする地域の方々の思いと、古文書の情報から歴史を明らかにする研究者の姿勢を学びました。

そして、陸前高田市にあった江戸時代の古文書を分析し、「なりわい」と自然環境をテーマに卒業論文を執筆し、卒業式では総長賞を頂きました。三菱商事復興支援財団の奨学金を頂いて、最もやりたい研究ができたことは、私にとって二度とない貴重な経験になりました。

今年度からは公務員として、一から仕事を勉強しています。これから復興の一助として働きながら、自分や家族の生活も復興に近づけていきたいと思います。

復興支援助成金

当財団では、被災地で復旧・復興支援活動に携わるNPOなどの非営利活動団体をサポートするため、復興支援助成金制度を設けています。2014年度は、目的を「地域経済への波及効果および雇用創出」と「地域の面的再生」の2テーマに絞り、8案件（上限1,000万円）に対し助成しました。

電気自動車の充電設備として復興公営住宅に太陽光パネルを設置。下写真はセレモニーの様子

日本カーシェアリング協会

宮城県石巻市でカーシェアリングを通じたコミュニティ活性化支援を行っています。当財団からの助成金を活用し、復興公営住宅の集会所で、電気自動車と太陽光発電システムを組み合わせ、防災機能を付加した新事業を立ち上げました。

sweet treat 311

宮城県石巻市の旧雄勝小学校を改修し、学びと宿泊の複合体験施設「MORIUMIUS」を7月18日のオープンに向け準備中。子どもたちの教育を行うと同時に、海外を含めた地域外との交流を行い、新しいコミュニティのかたちをつくるプロジェクトを進めています。

MORIUMIUS。三菱商事グループの社員ボランティアも手伝った

南三陸復興ダコの会

宮城県南三陸町で町興しの一環として名産のタコをモチーフにした「オクトパス君」の、タコ型文鎮やせんべいなどのグッズを販売。学べる工房創設など将来を見据えて人材育成にも注力しています。当財団からの助成金は、記念品製作事業強化などに活用されました。

さまざまな場で活躍する「オクトパス君」の着ぐるみ製作にも財団の助成金が活用された

事務所内の様子

ISHINOMAKI 2.0

町興しイベントの企画・運営、ITを活用した教育プログラムの展開など、震災直後から宮城県石巻市で活動してきた団体。当財団からの助成金は、オープンシェアオフィス「IRORI」の機能強化に活用されています。

本の発行などを通じて情報発信も行っている

土佐の森・救援隊

土佐の森方式と呼ばれる、これまであまり活用されていなかった山林での自伐林業による仕事づくりを行っています。震災後、被災地でも活動し、当財団からの助成金は、岩手県陸前高田市における気仙大工との連携事業などに活用されています。

研修の様子

オーリンクハウス

パン作り教室の様子

雄勝まちづくり協会

宮城県石巻市雄勝町で民間支援によって建てた施設「オーリンクハウス」を、私設公民館兼カフェとして運営。当財団からの助成金は、文化活動や生涯学習、地域行事の開催など、コミュニティの中心としての機能強化に活用されます。

re:terra

岩手県陸前高田市に活動拠点を置く団体。遊休資源となっていた気仙椿に付加価値を付け、化粧品などを商品化し、雇用の創出と新産業の創出を目指しています。

気仙椿。左写真は気仙椿を使用したハンドクリームの発表会にて

上：セッションの様子　下：オープニングセレモニーの様子

アスヘノキボウ

宮城県女川町で、町のニーズと支援組織とをつなぐハブ機能や人材育成などを担ってきた団体。当財団からの助成金は、課題把握のためのデータブック作成と、データブックを利用しての課題解決型フューチャーセッションの実施などに活用されています。

2014年度は、東日本大震災の各種復興事業やプロジェクトに、企画立案からコーディネーションまで幅広く携わるアドバイザーの方々６名の意見を伺いながら助成先を決定しました。

【アドバイザリーメンバー：順不同**】**

- 株式会社日本総合研究所 創発戦略センター **井上岳一**マネジャー
- 公益財団法人 地域創造基金さなぶり **鈴木祐司**専務理事
- 一般社団法人 ソーシャル・インベストメント・パートナーズ **白石智哉**代表理事
- 一般社団法人RCF復興支援チーム **藤沢 烈**代表理事
- 一般社団法人MAKOTO **竹井智宏**代表理事
- NPO法人ETIC. **山内幸治**理事

アドバイザリーメンバーとのミーティングの様子

Facts & Figures

2014年度活動データ

学生支援奨学金

	2014年度
性　別	人　数
男　子	503
女　子	491

	2014年度
学　年	人　数
大学1年	154
大学2年	216
大学3年	259
大学4年	273
大学5年※	18
大学6年※	9
短大1年	35
短大2年	27
短大3年	3

※ 医歯薬学部生

年　度	受給者数
2011年度	633名（約7.6億円）
2012年度	1,072名（約12.9億円）
2013年度	996名（約12.0億円）
2014年度	994名（約11.9億円）
累　計	3,695名（約44億円）

	2014年度	
都道府県別	学校数	人　数
北海道	5	9
青　森	3	4
岩　手	8	95
宮　城	19	248
秋　田	3	14
山　形	4	34
福　島	9	36
茨　城	5	20
栃　木	6	28
群　馬	3	9
埼　玉	14	76
千　葉	6	25
東　京	65	302
神奈川	15	36
新　潟	2	17
石　川	1	8
富　山	1	1
静　岡	1	2
愛　知	2	2
京　都	3	13
三　重	1	2
大　阪	1	7
広　島	1	1
香　川	1	1
大　分	1	1
沖　縄	1	3
	181校	994名

復興支援助成金

2014年度助成先（8件）	
日本カーシェアリング協会	宮城県石巻市でカーシェアリングを通じたコミュニティ活性化支援を行う団体。
sweet treat 311	宮城県石巻市雄勝町の旧小学校を改修し、新しいコミュニティのかたちをつくるプロジェクトを進める。
南三陸復興ダコの会	宮城県南三陸町でキャラクター「オクトパス君」を活かし町興しを展開。
ISHINOMAKI 2.0	宮城県石巻市で町興しの企画・運営、ITを活用した教育プログラムの展開など幅広く活動。
土佐の森・救援隊	岩手県陸前高田市や宮城県気仙沼市などで自伐林業による仕事づくりに取り組む。
雄勝まちづくり協会	宮城県石巻市雄勝町で文化活動や生涯学習、地域行事などを開催。
re:terra	岩手県陸前高田市で気仙椿を利用した活動を展開。
アスヘノキボウ	宮城県女川町で、町のニーズと支援組織をつなぐハブ機能や人材育成などを担う。

年　度	助成件数
2011年度	185件（約4.5億円）
2012年度	184件（約4.2億円）
2013年度	48件（約1.2億円）
2014年度	8件（約0.5億円）
累　計	425件（約10億円）

産業復興・雇用創出支援

2014年度

支援先	概　要	出資額（百万円）
ナカショク（岩手県大槌町）	イカの加工などを手掛ける水産加工会社への支援。	40
協同水産（宮城県気仙沼市）	サメなどの加工を手掛ける水産会社への支援。当財団からの資金を活用し一部設備を更新。	20
仙台秋保醸造所（宮城県仙台市）	宮城県唯一のワイナリーとして、交流人口の増加と被災地の産業復興への寄与を目指す。	50
旭屋（福島県相馬市）	「なみえ焼そば」を製造する企業。福島県浪江町から相馬市への工場移転を支援。	50
南相馬復興アグリ（福島県南相馬市）	地元関係者と連携し、植物工場を運営し生鮮トマトを生産。農業人材の育成を目指す。	50
しらかわ五葉倶楽部（福島県白河市）	植物工場栽培のホウレンソウで高齢者向けムース食品を加工販売する６次産業化に取り組む。	50
会津中央乳業（福島県会津坂下町）	会津の原乳にこだわり、ワンランク上の乳製品を生産。財団資金はチーズ製造事業立ち上げに活用。	12
サンフレッシュ小泉農園（宮城県気仙沼市）	新たにトマトの大規模水耕栽培施設を建設。新規事業立ち上げで約30名の雇用を創出。	50
及川商店（宮城県南三陸町）	南三陸町志津川地区に造成される水産加工団地への本社工場建設を支援。	50
桃浦かき生産者（宮城県石巻市）	かきの生産から加工、販売まで一体で行う６次産業化に取り組む。当財団の資金を活用し超高圧かき剥機を導入。	30
及新（宮城県南三陸町）	地元産のメカブを加工する工場新設を支援。	50
紬（岩手県陸前高田市）	気仙杉を活用した床材や家具キットなどの製造販売事業者。	5
IIE（福島県会津坂下町）	震災後に起業した、伝統工芸会津木綿を用いた雑貨製作を行う事業者。	7
2014年度合計（計13件）		464

2013年度

支援先	出資額（百万円）
気仙沼産業センター（宮城県気仙沼市）	50
ゼライス（宮城県多賀城市）	50
三浦商店（岩手県洋野町）	20
海楽荘（岩手県大船渡市）	50
八木澤商店（岩手県陸前高田市）	31
駅前ストアー（宮城県気仙沼市）	50
協働マネジメント（宮城県石巻市）	19
みちさき（宮城県仙台市）	100
キャニオンワークス（福島県浪江町）	50
宝来館（岩手県釜石市）	20
ヨシエイ加工（宮城県気仙沼市）	60
村上商事（宮城県塩竈市）	30
GRA（宮城県山元町）	50
カメリアン・プロダクツサービス（岩手県陸前高田市）	30
あんしん生活（岩手県陸前高田市）	20
什一屋（福島県富岡町）	50
長根商店（岩手県洋野町）	30
2013年度合計（計17件）	710

2012年度

支援先	投融資額（百万円）
キャピタルホテル1000（岩手県陸前高田市）	100
ヤマニシ（宮城県石巻市）	100
ラポールヘア・グループ（宮城県石巻市）	40
南相馬ソーラー・アグリパーク（福島県南相馬市）	30
南三陸町社会福祉協議会（宮城県南三陸町）	22
三陸飼料（宮城県気仙沼市）	100
気仙沼ケーブルネットワーク（宮城県気仙沼市）	50
気仙沼地域エネルギー開発（宮城県気仙沼市）	100
太洋産業（岩手県大船渡市）	100
伊藤商店（岩手県大槌町）	50
相馬の里（福島県南相馬市）	30
たろう観光ホテル（岩手県宮古市）	40
アップルファーム（宮城県仙台市）	10
森下水産（岩手県大船渡市）	50
2012年度合計（計14件）	822

2014年度　財務報告

■貸借対照表　2015年3月31日現在

公益財団法人 三菱商事復興支援財団

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　資産の部			
1．流動資産			
現金預金	47,602,883	55,315,851	△ 7,712,968
未収入金	2,314,177	2,202,861	111,316
前払金	0	578,771	△ 578,771
前払費用	665,377	0	665,377
流動資産合計	50,582,437	58,097,483	△ 7,515,046
2．固定資産			
(2) 特定資産			
事業積立資産	485,409,142	0	485,409,142
奨学金積立資産	0	4,080,526	△ 4,080,526
出資金積立資産	0	179,766,922	△ 179,766,922
出資金	1,794,000,000	1,150,000,000	644,000,000
長期貸付金	149,800,000	152,000,000	△ 2,200,000
敷金保証金	1,621,880	0	1,621,880
建設仮勘定	3,736,800	0	3,736,800
特定資産合計	2,434,567,822	1,485,847,448	948,720,374
(3) その他固定資産			
建物附属設備	1,023,400	1,046,083	△ 22,683
什器備品	404,814	856,959	△ 452,145
敷金保証金	700	408,000	△ 407,300
ソフトウェア	1,903,274	2,896,442	△ 993,168
長期未収収益	1,606,575	806,575	800,000
その他固定資産合計	4,938,763	6,014,059	△ 1,075,296
固定資産合計	2,439,506,585	1,491,861,507	947,645,078
資産合計	2,490,089,022	1,549,958,990	940,130,032
Ⅱ　負債の部			
1．流動負債			
未払金	9,108,043	3,117,387	5,990,656
預り金	20,420	0	20,420
流動負債合計	9,128,463	3,117,387	6,011,076
負債合計	9,128,463	3,117,387	6,011,076
Ⅲ　正味財産の部			
1．指定正味財産			
指定正味財産合計	2,434,567,822	1,485,847,448	948,720,374
（うち特定資産への充当額）	(2,434,567,822)	(1,485,847,448)	(948,720,374)
2．一般正味財産	46,392,737	60,994,155	△ 14,601,418
正味財産合計	2,480,960,559	1,546,841,603	934,118,956
負債及び正味財産合計	2,490,089,022	1,549,958,990	940,130,032

三菱商事復興支援財団の概要　2015年6月30日時点

名　　称　公益財団法人 三菱商事復興支援財団

設立目的　東日本大震災において被災した地域の復興に寄与することを目的とする

事業内容
1. 奨学金の給付
2. 団体（NPO法人や社会福祉法人など）に対する助成金の給付
3. その他、産業復興・雇用創出などに資する事業

役　　員

会長
小林　健　（三菱商事 代表取締役社長）

副会長
廣田 康人　（三菱商事 代表取締役 常務執行役員 コーポレート担当役員）

代表理事
野島 嘉之　（三菱商事 環境・CSR推進部長）

理事
足達 英一郎（日本総合研究所 理事）
上野 征夫　（ドリームインキュベータ 取締役）
大島 仁志　（公益財団法人 民際センター 理事）

評議員
末吉 竹二郎（国連環境計画 金融イニシアチブ特別顧問）
鬼頭　宏　（静岡県立大学学長）
小川 広通　（三菱商事 生活産業グループCEOオフィス室長）

監事
増　一行　（三菱商事 執行役員 主計部長）
藤間 秋男　（公認会計士）

サ イ ト　http://www.mitsubishicorp-foundation.org/

所 在 地　〒100-8086　東京都千代田区丸の内2-3-1
03-3210-9770（代）

［郡山事務所］
〒963-8004　福島県郡山市中町1-22郡山大同生命ビル10階
024-955-6011

希望のいしずえ